the Jumping Frog Story研究
── Mark Twainの世界

岸　上　眞　子

西部ですでに名をなしていたものの，東部での知名度がまだ低かったMark Twain（1835－1910）が，アメリカ全土でその名を響かせることになったのは，“Jim Smiley and His Jumping Frog”の発表による。New Yorkの*Saturday Press*誌（1865年11月18日刊）に掲載されるやいなや大評判となり，全国の新聞や雑誌等を通して大量に出回った。作者本人の許可なく増刷されたので，多くの誤植のみならず，内容の変更まで招くことになった。アメリカに限らず，特にイギリスで多くの海賊版が出された。一大ブームを引き起こしたのである。

後年，the Jumping Frog Storyのフランス語翻訳版が如何に原作と離れたものになったかについて明らかにする為に，そのフランス語版を自ら英訳して，三作（原作，フランス訳文，フランス訳文の英訳）を並べて，“The Jumping Frog in English, Then in French, Then Clawed Back into a Civilized Language Once More by Patient, Unremunerated Toil”（*North American Review* 158 April 1894）として発表した。また，出版社経営にも乗り出したこともあり，作家の著作権確立のために力を尽くしているが，内容の改竄や売れ行きが収入に繋がらないといった作家の権利侵害に対する不満や怒りはこの時期において明確なものになっていない。

Mark Twainは最初の発表から一ヶ月も経たない同1865年12月16日に，“Jim Smiley and His Jumping Frog”から“The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County”へと題名を変え，San Franciscoの*Californian*誌に掲載した。この版では地名や人名も変更した。その後も，何度も手を入れ発表し続けた。また草稿のみに終り，途中で断念したものも残されている。このように作者自身が改訂し続けた上に多数の海賊版があるので，現在の読み手は，手にしている文章が，どの版から来ているのか，どの程度原作そのものなのかについて明確に把握することが困難になっている。また，編集者も必ずしも正確に記していない。例えば出版年と題名の不一致が認められるケースもある。出版史を辿るだけでも時間のかかる作業となるであろう。

１．“Jim Smiley and Jumping Frog”

1864年５月，Mark TwainはNevadaのVirginia CityからSan Franciscoへ転居し，新聞・雑誌の執筆を続けた。すでに前年1863年から筆名としてMark Twainを使い始め，西部ではすでに名が売れていた。同年12月４日にSan FranciscoからJackass Hill およびその近くのAngel's Campへ移った。町での生活（諸々のプレッシャー）からの逃避，金銭的な苦境からの脱出，前途悲観，鉱山掘り，市の腐敗を暴露＆糾弾した一連の記事のために身を隠した等，目的は諸説ある。いずれにせよ，その結果，そこで様々な話（tale tales）をminerや住人から聞くことになった。時折メモをした中の一つが，Jumping Frogの話であった。この話は実話に基づき，Angel's Campあるいは周辺のmining campで起きたことが，1853年にSonoraの新聞に報告され，Mark Twainより前に少なくとも一回は出版されていたとされる。

1865年２月26日，三ヶ月半のmining camp生活からSan Franciscoへ戻った時Artemus Ward（1834-1867）から執筆依頼が来ていた。提出期限は過ぎていたが，その依頼を受けてFrog関連のストーリーを書き始めたとされるものの，それ以前にこのテーマで筆を執っていたとの説[(1)]もある。

Jumping Frogのtall taleを聞いて記録はしたが，Wardの要請原稿として即決したわけではなく，彼自身の手紙にあるように，たとえばキツネの話（“a tame fox”）も候補にあった。Jumping Frog同様，聞いた話を基にしてストーリー化を狙ったが，元の「語り」を超えるのは難しいと気づき断念した。要するに，“The idea of writing the Jumping Frog Story only very slowly took shape in my〔Mark Twain's〕mind”[(2)]と作者自身が語っているように，紆余曲折の末生み出されたのである。尤も，キャンプで聞いたJumping Frogの話は，私的な集まりで楽しませるために，持ち出すのを常としていたとされる。

２．“The Only Reliable Account of the Celebrated Jumping Frog of Calaveras County”

名声をもたらした“Jim Smiley and Jumping Frog”に取り掛かる直前に（1865年９月から10月にかけて）執筆されたが破棄されたと推測されている草稿として，次の二つストーリーが挙げられる。

“The Only Reliable Account of the Celebrated Jumping Frog of Calaveras County”
“Angel's Camp Constable”

前者“The Only Reliable Account of the Celebrated Jumping Frog of Calaveras County”では，“Mr. A. WARD － *Dear Sir :*”[(3)]で始まり，この時点で既に手紙の形を取ることを決めていたことが分かる。作者自身（Mark Twain）がframe narratorとなり，構造はframe-storyの形

を取っている。この枠組みは，この段階で決められ，基本的には改訂されることはなかった。次行“In accordance with your request”及び２段落目最初の“in accordance with your instructions”(4) は，“The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County”版で手紙の形を破棄した時，“In compliance with the request”(5) となって，単語の入れ替えはあるものの，類似表現となっている。

この草稿に有るものの“Jim Smiley and Jumping Frog”で消えたのは，Calaveras CountyというJumping Frogを限定する実在の地名である。草稿ではBoomerangという架空のmining campに脚光を浴びせながら，実名Calaveras Countyを付記している。つまり，この草稿では架空と実名のどちらも使い，次の“Jim Smiley and Jumping Frog”では架空のみ，その後の“The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County”版以降は，実名のみとしている。

架空とすることによって，ストーリー全体に霞みをかけられ暈すことが出来る。またこの架空名Boomerangそのものからboomerangやboomerという言葉の含みを引き出し，寓意を持たせたり，自己投影させたりすることも可能である。このような世界を描いた後に，実際に存在する場所に移行するのは，間違いなく読み手のみならず書き手にも混乱が生じる。従って実名部分への橋渡しが必要となる。それもBoomerangのモデルの一つがCalaveras CountyにあるAngel's Campである以上，両者，つまりBoomerangとCalaveras Countyの関係の位置づけが困難となる。その他，混在させることによる弊害は否めない。

この草稿の冒頭で明らかにされていることは，A. WardがMark Twain に課した二つの課題である。一つ目は，Mark Twain自身が，Boomerangというかつて栄えたmining townの現在の状況をWardの要求によってWardに報告することで，以下のようにWardの為の穴埋めである。

> . . . to supply a vacancy which must necessarily occur in the history of your〔Ward's〕travels in consequence of your having neglected to travel in that direction.(6)

ここには指図する者とされる者という上下関係があり，frame narratorは極めて従順で謙っている。この関係と姿勢は，the Jumping Frog Storyに共通して見られる特徴である。frame narratorが全く疑問を抱かず，作中には登場しない人物の言いなりになるという設定は，その後のストーリーの展開上かくべからずのもので，この草稿では意図通りに進んでいないが，“Jim Smiley and Jumping Frog”以降の版では活かされている。

二つ目の課題は，Wardの指示に従って，Simon Wheelerの知己を得て，彼から“a just and true account of the celebrated Jumping Frog of Calaveras County”(7) を入手することであった。どちらの要求も，作者自身の直前の経験や見聞を引き出す展開を想定していると言える。“Jim Smiley and Jumping Frog”以降の版におけるframe narratorに対する要求は，「Simon

Wheelerから友達について聞いてくること」のみとなっている。つまり，上述の一つ目は完全に消え，二つ目はSimon Wheelerに会う必要がある点では同じであるものの，Jumping Frogの話しを聞くことは課題ではなく，結果的に嫌々ながら聞かされてしまったという運びになっている。

Simon Wheelerは，その後のthe Jumping Frog Storyの中心をなしていく人物の１人であるが，ここでは，以下のような紹介で終わり，その後二度と登場していない。

> . . . the venerable rural historian, who resided at Boomerang in early times, (though for years past he has lived in unostentatious privacy on the picturesque borders of Lake Tulare,) . . . .[8]

繰り返しとなるが，Wardの指示は，このSimon Wheelerと知り合いになり，彼から“a just and true account of the celebrated Jumping Frog of Calaveras County”[9]について聞いてくることで，この中の“the celebrated”以下は後の版の題名として活かされている。Simon Wheelerの位置づけは，よそ者（stranger）としてではなく，その地域の人間として，それも，この町が栄えた時の住人としている。また，彼はvenerableが付くhistorianである。その後のthe Jumping Frog Storyのどの版でも名前は同じであるものの，同じ人物とは思えないSimon Wheelerが登場する。

また“Jim Smiley and Jumping Frog”以降の版では，冒頭部分でframe narrator（つまり書き手であり，語り手でもあるI，Mark Twain自身）がからかわれ，笑い物にされ，まんまと企みにはまってしまったのではないかと訝しがっていることに言及しているが，この草稿にはその懸念や含みをあらわす表現はない。

以上のように最初の前置き部分で，このストーリーの枠組みを手紙とし，frame-storyの形を採ることを明示し，Wardの依頼で，語り手であるＩ，つまりMark Twainが動いた結果が，この後に続く本文の内容であることが示されている。このあたりまでは，“Jim Smiley and Jumping Frog”と極めて似ており，この草稿を経て完成させたことが分かる。また“Jim Smiley and Jumping Frog”では活かされなかったが，その後の改訂版で復活させる例も認められる。この草稿の完成は断念したものの，完全に破棄したのではなかったと言える。

本文は以下の題名がつけられた四つの部分に分かれている。

EN ROUTE FOR BOOMERANG.
BOOMERANG —— PAST.
BOOMRANG —— PRESENT.
BOOMERANG —— FUTURE.

これを見ても分かるように，この草稿の中で，筆者はWardの課した要求のうち最初のBoomerang レポートに終始している。次のJumping Frogに関しては一切記述することなく，この草稿を書き続けることを断念している。ただし上述のように，繰り返しとなるが，全面的に破棄したわけではなく，その後の作品に活用している。

（1）EN ROUTE FOR BOOMERANG.

> I traveled from here toward Boomerang by steamboat a part of the way, and took the stage early the next morning. All day long we slopped through the mud, over a monotonous plain, with eyes fixed on the gleaming snows of the distant Sierras, and dreary enough the journey was. (10)

以上のように始まっているが，hereとはどこであろうか。蒸気船と駅馬車に乗って平原を通り，シエラ山脈を遠くに眺めていることから，Mark Twainが兄に従い故郷からNevadaへ行った道筋を彷彿とさせ，またこの道程の詳細は後年 *Roughing It*（1872年）として作品化している。従って，hereはHannibalを暗示していると取ることが可能である。しかし，作者の生い立ちや他の作品に関連させることなく，この部分のみで判断すると確かなことは，hereは西部のmining town of Boomerang 及び Calaveras County よりは東にあると言うことで，それ以上は明示されていない。frame narratorであるIが作者自身であるならばHannibalとなるが，“Jim Smiley and Jumping Frog”のように明確な手がかり（作品最後は“Yours, truly, Mark Twain.”(11) という手紙の一般的な結び文句）を読者に与えていない。東方面から西部へ旅するframe narratorにとって，西部及び西部方面が馴染みの場所でもなければ，まして西部出身でもないこと以外，この草稿の段階では出自は不明のままとしている。東部出身としてはいないものの東方面から来た人であることを暗示することは，読者と同じ目線に立ち，読者を西部世界へ誘おうとする意図を示している。つまり主たる読者を東部人として意識した上での設定であると言える。

西部の人から言うとframe narratorはよそ者である。しかし完全に東部の価値観を持っている人間として西部に行ったのかというとそうとも言えない。西部に入ってから，negativeな描写が続く。形容する単語を拾っていくと，dreary, rickety weather-beaten, dismal, dilapidated, tedious, staggering, desolate, melancholy, broken-hearted (12) となる。Boomerang近くの様子は，一言で言うと「荒廃」となる。

（2）BOOMERANG ── PAST.

frame narratorは五～六日間Boomerangに滞在する。冒頭部で現況に少し触れてはいるが，

その後は題名通り全面的にこの町の過去を語っている。かつてgold-rush townであったこの町Boomerangで金が採掘され栄えた頃の活況が最初に見えてくるようになっている。日中は国籍を問わず大勢の人が川に群がり，夜になると酒場に集まりギャンブルにふけり高価な外国の酒を飲み喧嘩に打ち興じ，“all were gay and happy”(13) と結んでいる。二節目は，they を主語とする短文が八つ並び，栄華の様子を具体的に表現しているが，次々と羅列するにとどめている。ビリアードなどの球遊びへの言及に始まって贅沢な生活ぶりを窺うことが可能であり，新聞や電報もすでに設置済みで，鉄道も通る話も出ていて，町としての組織が完全でないにしても進んでいることが見て取れるようになっている。このような列挙の後に，“Their streets were crowded with stores and shops, and stores and shops were thronged with hurrying, excited customers”(14) と結び，この段落は終わっている。

引用（13）に集約されているように，ここには否定的な描写が一切無い。当時の「活況」ばかり見えてくる。セミコロン，コンマ，ダッシュを多用し，ピリオッドに至るまで畳みかけるように羅列する方法をとり，勢いある町をさらに勢いづかせている。西部の奥地へ休むことなく入っていく場面でも，セミコロン，コンマ，ダッシュを使って，ピリオッドに至るまで次から次へと列挙する方法をとり一文が長くなっているが，ここでも部分的にその傾向が見られる。過去及び過去の栄華について肯定的に好意をもって描いているのは確かであるが，内側にいる人間と全く同じ視点で，嵌りきっているか否かについては微妙と言わざるを得ない。

その後の作品において顕著な特徴は，私的に思い入れが深い場合，現実を直視しない。過去の思い出の世界の中に真実があるとし，目を閉じ，眼前の社会を拒否する。他方，海外など目新しい世界では，現実をしっかり把握しようと努める。先達の高著とされる文献に左右されることがない。そのようなものに支配されることを嫌い，無知と謗られようと，知識，啓蒙，教養を通さず，裸の眼で見る。

このBoomerangは架空の地名である。作者の念頭にあるのは，それまでの数年間，作者自身が経験・見聞したNevada及びCaliforniaのmining townsであろう。決して長時間滞在したわけではないものの作者自身の方向を見定めることになった地をモデルとした以上，この地は前者となる。ここでは，インサイダー報告の傾向が濃厚とは言えないが，現在より過去を重視し是とする中に，上述の特徴の芽生えを認められる。同時に意図的によそ者の視点を取り入れているのは，西部を知らない読者とframe narratorの視点を近づける為であり，これによって同時に見聞していくことになり，導入方法としてその後のthe Jumping Frog Storyで生きていくことになる。

作者はBoomerangのモデル地を離れた直後に執筆している。つまり滞在期間と執筆期間に時間的な隔たりがない。従って強烈な郷愁の対象にはなっていない。しかし彼自身育った環

境がフロンティアであることを思い返せば，この西部も当時（過去）はフロンティアであり，両者の価値観は同一ではないにしてもどちらも西部のものであり，ほぼ同じと言える。作者にとっては，東部の価値観より近く，以上のような背景を考えれば，この作品における視点も理解可能となる。繰り返しとなるが，インサイダーレポートとは言い切れないものの，よそ者の眼に徹して描いているわけではない。

警察について，“an entirely responsible but inefficient police force consisting of a constable”(15) とあるが，後述する草稿を示唆する表現となっている。どちらを先に手掛けたかは不明である。

（3）BOOMRANG ── PRESENT.

「過去は～だったけれども，現在は～」という比較に始まり，最初の段落の言葉を拾うと，過去については”splendid”“cheerful”“grand”“splendor”“glory”であり，現在は“starvation wages”“poverty-stricken”“solitary”“dilapidated”“dejected”“mope”“inexpensive”“desolate”“humbled”“blighted”(16) 等の単語で表現されている。過去には華と活気があり，現在は廃れて，新聞や電信もなく鉄道は夢に終わり，通りは荒れ果て群がっていた人々もいないという有様である。更に“the inefficient constable is dead”(17) とか，“thy pride is humbled, thy hopes are blighted, the day of thy glory hath departed”(18) と続く。二段落目は，家の値段を具体的な数字を入れて比較している。家具は付いていないものの新しい家が十年前は五千ドルしたが，現在はペンキが剥げ，“surrounded by discouraged gardens reveling in weeds!”(19) となり，二百五十ドルに過ぎない。その他town-lotsやレストランのメニューの今昔のレポートが続いている。以上のように，必ず過去を引き合いに出して現在を語り，華やかであった過去を是とし，落ちぶれた現在は嘆きの対象としている。

Boomerangの現在について，三分の一は以上のように主として外側の比較に終始しているが，それ以降は“the sole remaining saloon”(20) に焦点をあてている。この酒場唯一の客にはCalvin Smithという名前がつけられているが，この部分の主人公は“the ruined and melancholy bar-keeper”(21) である。この酒場の主が，色が判別できないほど剥げた玉の色を“unspeakable solemnity”(22) を以って決める様子や，酒場にあるビリアード台，キュー，玉等について詳細に伝え，old citizensにはプレー出来ても，an outsiderやstrangersには玉の色さえ判別不可で手に負えないほど古ぼけていることを取り上げている。またミラクルショットについて十二行に渡ってセミコロンを駆使し一文で畳みかけるように語っている。この部分の特徴は，誇張を交え，tall taleの手法を取り入れているところである。frame narratorの興奮が伝わるような「語り」となり，玉の様子や動きが動詞を巧みに活用することで実況中継の様相を帯びさせ，生き生きとした表現を引き出すことに成功している。また，ここでは語

り手Ｉの登場回数も多くなっている。Mark Twainは自宅にビリアード台を置いた程ビリアード好きで知られているが，動きのある場面作りに成功している。

old citizens，an outsider，strangers，この三者の書き分けも注目に値する。この三者がこの場でどれほどビリアードの腕前を発揮できるかを描き分ける中に作者の思いが見える仕組みとなっている。語り手の心情がこめられているといえよう。「Boomerang現在」を結ぶ前に，語り手Ｉの「ことわりがき」が入っている。

> I seem to have wandered from my subject somewhat. However . . . if your readers can't tell by intuition what a town looks like . . . it would be a waste of labor on my part to try to describe it to them intelligibly. . . . [(23)]

> I am not inspired — let me pass on to. [(24)]

一見投げやりに感じさせるが，ここにはユーモアと受け狙いがある。また前述のビリアードのところで作者個人が前面に出てしまったことに対して軌道を修正し，基本的に作者はframe narratorであり，「語り」のみに戻ることを明確化し，それを読者に伝えることが，この部分の意図である。従って，次の「Boomerang未来」では，Ｉとして一切登場していない。

（4）BOOMERANG —— FUTURE.

ここでは，語り手Ｉは一切登場せずに，Boomerangの将来について記している。実はこの地には金が眠っている。しかしこの恩恵はこの地で長年苦労してきた人の手に渡ることはない。眠っている金の鉱脈で潤うのは，地元民ではなく，“a New York company”[(25)]，つまり東部企業・企業家である。「～にしてやられた！」と言うこの幕引きは“Jim Smiley and His Jumping Frog”以降のストーリーの結末に通じるものがある。素朴で単純な西部（人，文化，価値を代表するもの）は，sophisticatedだが狡猾で巧妙な東部（文化，社会，人々，資本）には負ける仕組みとしている。以上で，この草稿は終わっている。続けて二番目の使命の過程や結果を書くことはなかった。題名にあるFrogも生かさていない。

ここで作品世界の中に入ってみると，上述したように，Boomerangの現在，過去，未来に渡るレポートとなっているが，二番目の課題に関連するSimon Wheelerは，かつて（過去）Boomerangに住んでいたが，引用（８）にあるように，現在はthe picturesque borders of Lake Tulare（bordersという表現からLake Tahoeを指すと推定可能）在という設定なので，frame-narrator はBoomerangから離れて，Simon Wheelerに会い，Calaveras CountyのJumping Frogの

話（過去に起こった出来事）を聞き出さなければならない。Calaveras CountyとBoomerangの関係を作中で明記していないが，BoomerangはCalaveras Countyにある mining campと考えられる。従って，折角出向いた先（あるいは付近）で起きたJumping Frogの話を聞く為に，別の場所への移動を余儀なくされる展開とせざるを得なくなっている。またこの二つの使命を結びつける必然性を提示しない限り，テーマの統一性を見出すのは困難である。二つの課題を設定した時点で，草稿に終わる可能性を進めたと言えよう。

３．“Angel's Camp Constable”

もう一つの草稿である“Angel's Camp Constable”は，以下のように始まる。

> I was told that if I would mention any of the venerable Simon Wheeler's pet heroes casually, he would be sure to tell me all about them, but that I must not laugh during the recital, as he would think I was making fun of them, and it would give him mortal offense. I was fortified with the names of some of these admired personages. (26)

この導入部が示しているように，frame narratorであるＩ，つまりMark Twain自身がSimon Wheelerの話を聞くというストーリーである。このSimon Wheelerは前の草稿と同様に敬称あるいは皮肉のどちらとも取れないvenerableが付くものの，同じ人物として設定したかどうかについては，読み取れるほど書き込まれていないので明確ではない。“rural historian”とはどの程度のレベルを意味するのか，あるいは専門性を備えた人物を指すのか否か定かではないが，その土地について詳しい人を指すのであれば，二つの草稿に登場するSimon Wheelerは同一である可能性が高いと言えよう。

“I was told”と受身で始まっているが，誰がＩ（= Mark Twain）に語ったかについては明らかにされていない。もっともSimon Wheelerについて熟知している人物であることは確かである。筆者はその者のアドバイスに従い，対策を立てた上で，Simon Wheelerに対して，そつなく語りかけている。しかし，何故彼と会話を交わさなければならなかったのであろうか。ここで前の草稿での二つ目の課題を思い起こすと辻褄が合う。つまり，前の草稿の二番目の使命が，形を変えて，ここに生きているとの解釈が可能になるのである。

Jumping Frogではなく（Jumping Frog を“pet heroes”の一つに入れるならば，敢えて聞かずに），“some of these admired personages”を持ち出してはいるものの，また依頼を受けて尋ねるなどの筆者に対する縛りも記されていないが，frame narratorの嫌々ながらの前向きとはいえない対応や取り組みの中に，次の“Jim Smiley and Jumping Frog”に繋がるものも認められる。また，the Jumping Frog Storyとの関連は，“pet heroes”への言及から読み取れないこ

ともない。更に“pet heroes”の話が笑えるものであることがlaugh禁止としてあることから暗示されている。

frame narratorが持ち出した“admired personage”は，“a constable here by the name of Bilgewater”(27) という人で，“who attained to considerable eminence, and whom I have frequently heard of in various parts of the world”(28) という説明が加えられている。“did you know him ?”(29) という呼び水で，“The old gentleman”(30) であるSimon Wheelerは，

> . . . oozed gratified vanity at every pore, but its expression took no more enthusiastic form. Nothing could seduce him from unsmiling mien or force any enthusiasm into the smooth monotony of his voice. (31)

となる。tall taleの話し手のあるべき姿や語り口がここに表されている。そして，最も重要であるのは，他ならぬこのSimon Wheelerの語り方にある。Mark Twainは語りについて，“How to Tell a Story”（1897）というsketchで以下のように説明している。

> The humorous story depends for its effect upon the *manner* of the telling. . . . (32)

> The humorous story is told gravely; the teller does his best to conceal the fact that he even dimly suspects that there is anything funny about it. . . . (33)

この草稿及び the Jumping Frog Storyでも，frame narrator（Mark Twain）の要望で，the tellerであるSimon Wheelerは話を始める。Simon Wheelerの話しぶりは，引用（32）&（33）に従うものである。frame narrator にとっては興味の持てないあるいは自分の要望に答えていない話となって長々と（the Jumping Frog Storyでは，最後はうんざりして逃げ出してしまうほど）続く。といって話しの腰を折るほどの胆力は無い。完全にやられっぱなしで，有無を言わさずの状態が延々と続く。作品世界に登場する人物は誰一人，humorousとかfunnyと感じることがない。humorous storyを味わえるのは，読者のみなのである。

Bilgewaterなる人物だけを描き出すことを作者は目的としてはいない。語る人，その語りを聞く人，その両者をこの草稿では登場させた。その結果，引用（32）&（33）でMark Twainが主張していることを作品として実現できたのである。尤も引用（31）の後は，Simon Wheelerの語りで終始し，frame narratorは二度と登場していない。従って，読者はこの話に対するframe narratorの反応を読み取ることはできない。また繰り返しとなるが，ここでは語りを聞く人（frame narrator）が語る人（Simon Wheeler）に，不承不承ながら（と思

わせる様子は記されているが）話を何故させたのかについてまで言及されていない。しかしながら，frame narratorとtellerを駆使し，前者は興味の持てない話を長々と聞かされ，ただただ話したい，聞かせたい後者は，聞き手の思いには構いなく，どんどん進めていくというthe Jumping Frog Storyのパターンの原型がここに見出せる。

frame narrator が語る時，例えば“The Only Reliable Account of the Celebrated Jumping Frog of Calaveras County”におけるBoomerangレポートでは，古風と言える“thy”や“hath”(34)で表現することはあっても俗語や口語を使用していない。この“Angel's Camp Constable”でもdouble quotation marksに入っているframe narratorの言葉も話し言葉であるにもかかわらず同様である。Simon Wheelerの話す部分になってはじめて俗語・口語が使われている。frame narratorとtellerの言葉遣いに一線を引くのは，the Jumping Frog Storyでも引き継がれている。

Simon Wheelerの話すところによると，Bilgewaterは三年間程Angel's Campでconstable を勤めた後，New Yorkで必要とされたらしく（作中では推測にとどめる表記），このCampを出ていってしまった人物である。

> He always liked to have people pay him a good deal of respect, and he liked to have them call things belonging to his line by big names. . . . So he made the most of what business there was. He . . . laying for a riot, or an insurrection — because that was what he called it when fellers would get to fighting — he never called fights rows, or fracases, or such names. There warn't anything small about him — names nor anything.(35)

彼の人となりとAngel's Campでの仕事ぶりを語った後に，いつも手荒く収めるので，“he'd swear his boots was new and that he wore 'em out on that occasion”(36)と続き，その後，喧嘩も騒擾として扱った例が挙げられている。“quarreling”中の二人に対して“Bilgewater sung out angry-like, 'Hell, here's another riot,' run out and says, 'In the name of the constable of this deestrict, I command the peace”という対処で，更に両者を蹴って，拳骨で両方を殴り倒して，“That was the end of that business”(37)となる。しかしこれで終わらず，蹴ったがゆえにブーツが壊れたとし，この二人を判事の下へ連れて行く。落とし前のつけ方は，“charged them with being engaged in a riot, and made a speech and showed his boots to the court and got them fined forty dollars apiece”(38)というものである。

このような事件が終わった後に，彼がホテル前の馬桶で顔を洗おうとすると，皆が彼の周囲に集まり，彼のために水やタオルを用意し，何が起きたかと彼に聞く。これに対して，彼は，

> ‘O damn such a place as this — keep a man on the go, all the time. . . . Riots — hell, there ain’t a day that there ain’t riot. What have I been doing now? What do you s’pose I’ve been doing but putting down another d — d insurrection ? . . . . if this rioting is going to go this way much longer, *I*’m not going to be constable, that’s all’ (39)

と語り，これに対して，語り手tellerであるSimon Wheelerが以下のように結んで，この草稿は終わっている。

> . . . he always talked that way because I s’ppose he knowed he was the quickest and the handiest man about busting up a riot that had ever been in the camp. I wonder what they think of him in New York. There’s one thing certain — if they see him snatch a riot once they’ll conclude pretty quick that he’s no slouch.” (40)

結局，“There warn’t business enough here for a man of his talents, though what there was he made the most of ” (41) の中に，このストーリーの核がある。Bilegewaterにどれほどの才能があるかについて定かでないものの，以上のように，Simon Wheeler（teller）がframe narratorに対して，Bilgewaterについての自慢話をする展開となっている。実際は何一つ仕事もない単調で退屈なcampで，このConstableは事件にもならないことを大げさに取り上げて収めた気になっている。本人もtellerもその愚かさに気づいてはいない。周囲も彼を奉っている様子が読み取れる。tellerの語りの特徴となっている誇張表現はtall taleの流れを汲むものである。また集団衆愚は作者がその後頻繁に取り上げていることになるテーマの一つであるが，ここに芽が認められる。

上述の周囲の人々はBilgewaterの聞き手ともなっている。frame narratorはtellerの聞き手，そして読者はframe narratorの聞き手である。tellerの語りの中に出てくる人物にもその話を聞きたがる人々を登場させ，frame narrator自身もtellerの話を聞きだす役割を担う。要するに話し手と聞き手が何重にもなっている構成である。frame narratorのみが作者と同一視点とされがちであるが，実は，どれも作者の分身の要因を持っていることに留意したい。後の作品のselvesなどに見られる 作者の複眼につながっている。

二つの草稿を通して，共通する三つの時制が見えてくる。現時点でframe narratorが語るのは，過去に調べたり聞いたりした内容で，その中でtellerであるSimon Wheelerが話す内容はその時点で過去のこと，つまり大過去となる。レポートあるいはtellerの語りの中で出てくる名前のついた人物は主としてその時点で過去，つまり大過去において活躍した人となる。

つまり三層の時制で構成されているといえる。語っている現時点も過去も，栄華が消え去った後（Boomerangのモデルと同じ）であり，大過去こそ栄華を誇った時代であった。停滞して救いがたい時の流れが目の前にある中で，frame narratorは，古き良き日々について俗語・口語を多用しながら，tellerの口から語らせているのである。どちらも完成には至らなかったが，the Jumping Frog Storyばかりでなく，後年の作品の萌芽を沢山見出すことができる。

the Jumping Frog Storyに含まれる代表的な作品は以下の通りである。

"Jim Smiley and His Jumping Frog"
"The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County"
"The Notorious Jumping Frog of Calaveras County"
"The Jumping Frog in English, Then in French, Then Clawed Back into a Civilized Language Once More by Patient, Unremunerated Toil"
"The Private History of the Jumping Frog' Story"

改訂を重ねるごとに，どのように変わっていったのかについて焦点をあてつつ，各版の詳細な比較と分析を進め，作者の狙いを明らかにしていくことを研究の目的としているが，本論では"Jim Smiley and His Jumping Frog"発表前に執筆された二つの草稿を中心とした。

Notes

（1）R. Kent Rasmussen, *Bloom's How to Write about Mark Twain*（New York : Boom's Literary Criticism, 2008）, p.227.
（2）Cyril Clemens, *Young Samuel Clemens*（Newton : The Graphic Press, 1942 ; Folcroft Library Editions, 1976）, pp.216-217.
（3）Twain, Mark "The Only Reliable Account of the Celebrated Jumping Frog of Calaveras County." *The Works of Mark Twain : Early Tales and Sketches.* Vol. 2（1864-1865）. Edited by Edgar M. Branch and Robert H. Hirst. Berkeley and Los Angeles: University of California Press, 1981. p.273.
（4）*Loc. cit.*
（5）Twain, Mark. "The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County." *The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County, And other Sketches.* Edited by John Paul. New York : Charles Henry Webb, 1867. Reprinted in *The Oxford Mark Twain.* Ed by Shelly F. Fishkin. New York : Oxford University Press, 1996. p.7.
（6）Twain, Mark "The Only Reliable Account of the Celebrated Jumping Frog of Calaveras County." p.273.
（7）*Loc. cit.*
（8）*Loc. cit.*
（9）*Loc. cit.*
（10）*Ibid.*, pp.273-274.
（11）Twain, Mark. "Jim Smiley and His Jumping Frog." *Early Tales and Sketches.* Vol. 2（1864-1865）. Edited by Edgar M. Branch and Robert H. Hirst. Berkeley and Los Angeles: University of California Press, 1981. p.288.
（12）Twain, Mark "The Only Reliable Account of the Celebrated Jumping Frog of Calaveras County." p.273-274.

(13) *Loc. cit.*
(14) *Ibid.,* pp.274-275.
(15) *Ibid.,* p.274.
(16) *Ibid.,* p.275.
(17) *Loc. cit.*
(18) *Loc. cit.*
(19) *Loc. cit.*
(20) *Ibid.,* p.276.
(21) *Loc. cit.*
(22) *Loc. cit.*
(23) *Ibid.,* p.277.
(24) *Loc. cit.*
(25) *Ibid.,* p.278.
(26) Twain, Mark "Angel's Camp Constable." p.279.
(27) *Loc. cit.*
(28) *Loc. cit.*
(29) *Loc. cit.*
(30) *Loc. cit.*
(31) *Loc. cit.*
(32) Twain, Mark. "How to Tell a Sotry." *How to Tell a Story and Other Essays.* New York : Harper & Brothers Publishers, 1897. Reprinted in *The Oxford Mark Twain.* Ed by Shelly Fisher Fishkin. New York : Oxford University Press, 1996. p.3.
(33) *Ibid.,* p. 4 .
(34) Twain, Mark "The Only Reliable Account of the Celebrated Jumping Frog of Calaveras County." p.275.
(35) Twain, Mark "Angel's Camp Constable." pp.279-280.
(36) *Ibid.,* p.280.
(37) *Loc. cit.*
(38) *Loc. cit.*
(39) *Ibid.,* pp.280-281.
(40) *Ibid.,* p.281.
(41) *Ibid.,* p.279.

Bibliography (Primary Sources)

Twain, Mark. "The Only Reliable Account of the Celebrated Jumping Frog of Calaveras County." *The Works of Mark Twain : Early Tales and Sketches*. Vol. 2 (1864-1865). Edited by Edgar M. Branch and Robert H. Hirst. Berkeley and Los Angeles: University of California Press, 1981.

Twain, Mark. "Angel's Camp Constable." *The Works of Mark Twain: Early Tales and Sketches*. Vol. 2 (1864-1865). Edited by Edgar M. Branch and Robert H. Hirst. Berkeley and Los Angeles: University of California Press, 1981.

Twain, Mark. "Jim Smiley and His Jumping Frog." *Early Tales and Sketches*. Vol. 2 (1864-1865). Edited by Edgar M. Branch and Robert H. Hirst. Berkeley and Los Angeles: University of California Press, 1981.

Twain, Mark. "The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County." *The Celebrated Jumping Frog of*

Calaveras County, And other Sketches. Edited by John Paul. New York: Charles Henry Webb, 1867. Reprinted in *The Oxford Mark Twain.* Ed by Shelly F. Fishkin. New York: Oxford University Press, 1996.

Twain, Mark. "The Notorious Jumping Frog of Calaveras County." *Sketches, New and Old.* Hartford and Chicago: American Publishing Co, 1875. Reprinted in *The Signet Book of Mark Twain's Short Stories.* Ed by Justin Kaplan. New York: Signet Classic, 2006.

Twain, Mark. "The 'Jumping Frog.' In English. Then in French.Then Clawed Back Into A Civilized Language Once More By Patient, Unremunerated Toil." Mark Twain's *Sketches, New and Old*. Hartford: The American Publishing Company, 1875. Reprinted in *The Oxford Mark Twain.* Ed by Shelly Fisher Fishkin. New York: Oxford University Press, 1996.

"The Private History of the Jumping Frog Story", *North American Review* 158 April 1894.

The Jumping Frog in English, Then in French, Then Clawed Back into a Civilized Language Once More by Patient, Unremunerated Toil November 1903

Twain, Mark. "How to Tell a Sotry." *How to Tell a Story and Other Essays*. New York: Harper & Brothers Publishers, 1897. Reprinted in *The Oxford Mark Twain.* Ed by Shelly Fisher Fishkin. New York: Oxford University Press, 1996.

A Study of the Jumping Frog Story —— Mark Twain World

Mamiko KISHIGAMI

Mark Twain's "Jim Smiley and Jumping Frog" brought him quick literary success and fame throughout the United States. It was reprinted or pirated in newspapers and periodicals not only in the United States but also in Europe.

There were two Twain manuscripts "The Only Reliable Account of the Celebrated Jumping Frog of Calaveras County" and "Angel's Camp Constable" written before the publishing of "Jim Smiley and Jumping Frog". Mark Twain himself countinued revising the story. These revisions were published under a number of different titles.

"The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County"
"The Notorious Jumping Frog of Calaveras County"
"The Jumping Frog in English, Then in French, Then Clawed Back into a Civilized Language Once More by Patient, Unremunerated Toil"
"The Private History of the Jumping Frog' Story"

Collectively, these are usually referred to as the Jumping Frog Story.

Here, "The Only Reliable Account of the Celebrated Jumping Frog of Calaveras County" and "Angel's Camp Constable" are analyzed and compared to later versions.